

NEWS LETTER

発行:水資源・環境学会

NEWS LETTER No.55

2011年1月18日

2010年度 冬季研究会 都市と溜池保全

2010年度冬季研究会を下記の要領にて開催致します。皆さまのご参加をお待ちしております。

大都市近郊の溜池は、都市化にともなって著しく変貌し、潰廃が進んできています。また、老朽化した溜池の災害時における危険性が指摘される一方で、溜池の持つ多面的機能の重要性が叫ばれるようになり、最近では各地で溜池保全に向けたさまざまな取り組みが行なわれるようになってきています。そうしたなか、全国の溜池から「ため池百選」が選定されたり、兵庫県稲美町における溜池群が国の文化的景観の重要地域に選ばれるなど、近年溜池に対する国民的な関心が大きくなりつつあります。

今回の研究会では、都市と溜池保全をめぐる問題、対策、実情を再確認し、都市化地域の溜池保全の課題について考えることで、よりよい溜池保全のあり方を模索したいと考えます。

目次:

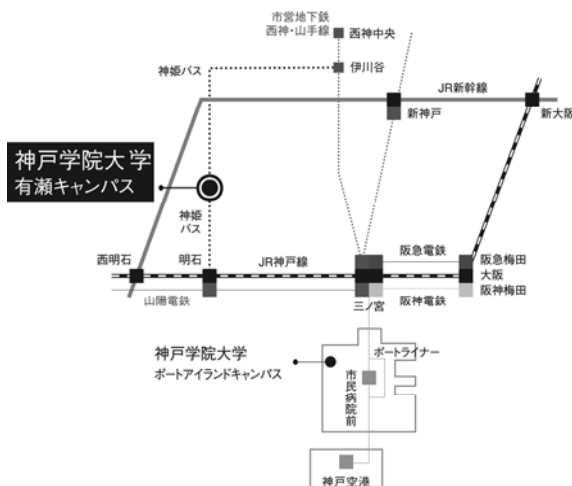
2010年度 冬季研究会 ご案内	1
2011年度 研究大会 ご案内	2
2011年度 夏季研究会 第一報	3
2010年度 夏季研究会 報告	3
新規加入会員案内	6
学会誌電子化について	6

【日時】 2011年3月6日(日)14:00~17:00

【場所】 神戸学院大学有瀬キャンパス
15号館1階F(151F)教室
〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
電話:078-974-1551(代) <http://www.kobegakuin.ac.jp>

* JR・山陽電鉄「明石」駅北側バス停「北1番」のりばから、神姫バス「神戸学院大学」経由のバスに乗り、「神戸学院大学」下車後すぐ。所要時間約20分、約8分ごとに発車。

* 神戸市営地下鉄「伊川谷」駅前バス停「4番」のりばから、神姫バス「神戸学院大学」経由のバスに乗り、「神戸学院大学」後すぐ。所要時間約10分、約15分ごとに発車。



【発表】

- ・川内眷三 (四天王寺大学)
溜池潰廃の構図にみる再生施策への提起
—大阪平野中・南部の調査事例をもとに—
- ・森脇 馨 (兵庫県加古川流域土地改良事務所)
東播磨地域におけるため池保全の取り組みについて
- ・長尾貴人 (神戸学院大学・学生)
カイボリから見たため地と地域住民との関わりについて—兵庫県東播磨地方を事例に—

【コメンテーター】

南埜 猛 (兵庫教育大学) ・伊藤達也 (法政大学)

【司会】

仲上健一 (立命館大学)

※研究会終了後、懇親会を予定しております

○研究会の連絡先 矢嶋 巖 (神戸学院大学)
電話 078-974-1551 (代)
人文学部ファクシミリ 078-976-7296
E-mail: yajimai@human.kobegakuin.ac.jp

2011年度 水資源・環境学会

研究大会のご案内

研究大会テーマ：「総合流域治水」
研究大会開催日：2011年6月4日(土)

日本の人口の約9割弱は、河川の中・下流域に発達した都市部に居住していることから、都市部における河川の治水は、大きな社会問題となっている。

こうした国土の変容により、治水は、これまでのダム建設や河川改修による解決アプローチでは、すでに限界に達しているだけでなく、流域全体での健全な水循環や生態系保全を阻害している、といえる。特に、生態系保全や河川の多様な機能から受ける恵沢が十分とはいえなくなっている。

そこで、従来の河川改修に流域対策（保水、遊水、低地の3地域）や減災を加え、三本柱で治水するという、流域総合治水の概念が発想され、この考えにもとづく治水へと動き始めている。

流域総合治水は、河川流域全体で大きな水ネットワークを再編・構築し、治水効果や水循環の健全さ、自然環境保全の向上を期待する考えであるが、実際の治水にあたっては、河川管理者だけでなく、広く流域住民の協力と参加が必要になる。

今回の研究大会では、総合流域治水というコンセプトに対して、治水技術、経済・社会への効果、政策立案、生態系保全、水循環、住民参加と合意形成など多面的に論じてみたい。

会員みなさまからの研究報告をお待ちしています。

【大会会場】バンビオ1番館(長岡京市中央生涯学習センター)
最寄駅:JR長岡京(東海道本線)から徒歩1分
〒617-0833 京都府長岡京市神足2丁目3番1号
電話:050-7105-8500

【発表応募締切】2011年3月26日(土)必着

【研究発表区分】① 自由論題 ② 研究大会テーマ論題

【応募要領】自由論題、研究大会テーマ論題ともに次の4項目を記入のうえ、電子メールで送付ください。
◎「研究発表区分」「タイトル」「報告者名」「400字程度の要旨」
◎E-mail: wakai@due.osaka-sandai.ac.jp

【発表原稿締切】2011年5月21日(土)必着

【応募問合せ】若井 郁次郎(大阪産業大学・人間環境学部・生活環境学科)
〒574-8530 大東市中垣内3丁目1番1号
電話: 072-875-3001(代表)内線7754/FAX: 072-871-1259
E-mail: wakai@due.osaka-sandai.ac.jp



～2011年度夏季現地研究会第一報～

今年の夏季現地研究会は、国境の南に目を向け、台湾で実施する予定です。台湾での現地研究会は、2010年度研究大会テーマ「東アジアの水資源・環境」の一貫ともいえます。

台湾においては、伸びゆく経済発展とともに、残し伝えたい国立公園や自然保護区、日本と類似した河川の形状や特性、降雨パターンなどを見て、知り、学び、考えるべき水資源・環境がたくさんあります。

研究会の内容については、現在、台湾南西部の台南市と嘉義市を中心に、水資源・環境との関連でダムと発電施設、灌漑用水路、湿地保護、旧工場排水による水質汚染問題、温泉などの視察やヒアリングに加え、大学研究者との交流、史跡探訪を研究企画委員会で検討しています。詳細は、次号のニュースレターでお知らせします。

テ　マ　： 「東アジアの水資源・環境—台湾南西部の現状—」

日　程　： 2011年8月下旬（9月上旬）

訪問予定地　： 中華民国・台湾（おもに台南市・嘉義市とその周辺地域）

担当：若井 郁次郎（大阪産業大学） wakai@due.osaka-sandai.ac.jp

2010年度 夏季研究会

「豊水地と乏水地—徳島県那賀川流域と淡路島—」報告

矢嶋 巖(神戸学院大学)

8月27・28日に、水資源・環境学会2010年度夏季研究会が行なわれ、乏水地としての淡路島、豊水地としての徳島県那賀川流域を訪ねた。参加者は12名であった。図1に主要訪問先の位置を概略的に示した。

8月27日（金）淡路島三原平野

この日は見事な晴天であった。10時に明石駅に集合し、8人乗りのレンタカー2台に分かれて出発した。当初は明石海峡をフェリーで渡るという案もあったが、残念ながら時間が合わず、明石海峡大橋で一気に越えることとなった。淡路島の尾根筋につけられた神戸淡路鳴門自動車道を1時間も走ると、風景は水田が広がる平野に変わった。第一の見学地である南あわじ市の三原平野である。水田の間には、ところどころにタマネギ小屋がみえたが、さすがにタマネギには季節外れであり、わずかに吊るされている小屋を見るに過ぎなかった。

午後には、みっちり水利施設の見学と意見交換会が

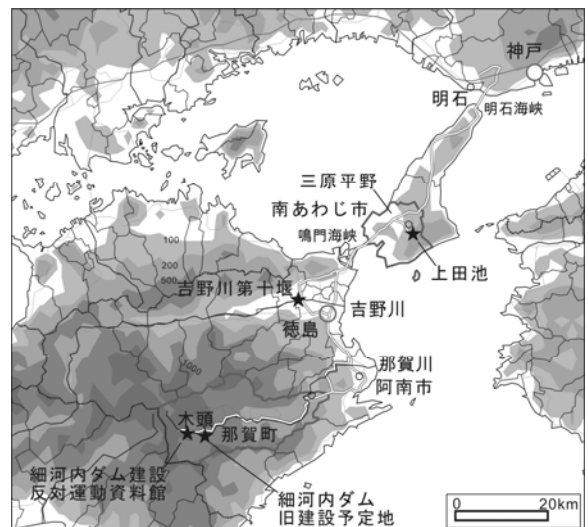


図1：訪問先の位置

予定されていたので、少し早めの腹ごしらえをする。昼食は、淡路島牛丼あるいは鯉井とうどんのセットで、淡路島観光連盟が進めている淡路島の地域活性化のための、淡路島牛丼プロジェクトのメニューであった。

昼食にみっちり時間をかけて頂く予定であったが、参加者のみなさん、かなりの早食いばかりなのか、午後からの見学のための待ち合わせ場所である南あわじ市役所三原庁舎に、予定よりかなり早く着くことになってしまった。さて、この手持ち無沙汰をいかに乗り切るかと、担当者は冷や汗であったが、幸いにも庁舎に隣接する三原図書館内に人形浄瑠璃資料館があり、充実した展示内容を無料で見学でき、時間を過ごすことができた。みなさん、満足のご様子。どうやら今回の旅程、運がよさそうである。

13時、ご案内をお願いした方々と集合した。兵庫県洲本土地改良事務所農村計画第2課課長の糸口正和さん、課長補佐の加藤浩司さん、南あわじ市役所農地整備課課長の大瀬久さん、主幹の吉田充宏さんをはじめとしたみなさん方である。役所の自動車による先導で、三原平野の農業水利施設の見学となった。

まずは、三原庁舎近くにある西ヶ谷池田主（たず）の施設を見学した。田主とは、淡路島における水の所有者の組合とされる（三原郡史編纂委員会編1979）。街道筋から少し横にそれると緩斜面に水田が広がっている。狭い農道の横に、ぽつんと西ヶ谷池田主の小屋が建っていて、西ヶ谷池田主の役員さんたちが待っていた。役員の人である和田さんから田主について解説を頂く（写真1）。小屋には水を受けることができる時間、氏名、灌漑面積が記された木板が掲げられていた。乏水地域における灌漑の厳しい現実を垣間見ることができた。



写真1 西ヶ谷田主にて

続いて、1932年に完成した上田（こうだ）池堰堤を水源とする上田池土地改良区の水利施設の見学である。農業用水路に3か所設置されている円筒分土工の一つに、椿原義郎理事長をはじめとする上田池土地改良区の役員のみなさんたちが待っていて、解説を頂いた（写真2）。平等な配水のための円筒分土工の複雑な仕掛けに、「こっちの水があっちに行って」といった風な声が出るなど、参加者のみなさんも興味津々であった。参加者がめいめいに役員の方々や土地改良事務所のみなさんに質問をするなどした。もう1か所の円筒分土工を見学した後、谷を渡る水路橋を見学し、14時過ぎに上田池堰堤の堤体に到着した。上田池堰堤は粗石モルタル工法による近代重力堰堤で、堤高は41.5mに達するという。ここでも土地改良区の役員のみなさんたちから解説を受けた。実際の水量調整の様子など、現場でないとわからない話も聞くことができ、大変興味深かった。

続いて浦壁公会堂に移り、洲本土地改良事務所、市役所農地整備課、土地改良区の役員のみなさん方を囲み、三原平野における農業や、上田池についての詳しい説明を受けた（写真3）。乏水地域でありながら生産性が高い三原平野における農業の実情、土地改良区の課題についても伺うことができた。説明と質疑応答は1時間以上にわたった。

淡路島を離れ、2台の自動車は大鳴門橋を渡って徳島県へ至った。国道55号線を南下し、阿南に到着したのが18時頃。いったん解散し、阿南駅近くの居酒屋で再集合し、懇親会を行なった。本日、大変お疲れ様でした。



写真2 上田池土地改良区円筒分土工にて

8月28日（土）徳島県那賀川流域

2日目はやや雲が多いものの晴れ。夜に降った雨もあってか、いくぶん気持ちのいい朝となった。今回の研究会のために那賀川流域の現地コーディネイトと解説をお願いした徳島県庁OBの松本竹生さん、解説をお願いした徳島大学の平井松午先生が加わられ

た。

8時に阿南を出発して、松本さんが運転する車の先導で国道55号線を北上し、那賀川左岸の道路を上流側へと進んだ。途中、水神さんの一つと北岸堰付近で、平井先生、松本さんより解説を受けた（写真4）。



写真4 那賀川北岸堰付近での説明

一行を乗せた自動車は、いったん那賀川から離れて県道28号線を南下した後、今度は木頭を経て高知県へと至る国道195線をひたすら西進し、木頭へと向かった。

山あいに入ると天気が不安定となり、時折強い雨も降るようになった。山は次第に険しさを増し、谷も次第に深まっていく。途中、長安ロダム湖畔にある長安ロダム資料館で小休止し、若干の見学をした後、さらに西へと進んだ。旧木頭村に入り、曲がりくねった狭いままの国道を進み、10時半過ぎに、見学先である細川内（ほそごうち）ダム建設反対運動資料館に到着した。館長の田村 好さんと奥さん、近所にお住まいの協力者の女性が我々の到着を待っていた。

田村さんは反対運動の中心的存在の一人で、反対運動の記憶を残すべく、自費でこの資料館を建てられたという。資料館には、手書きの年表や運動時の写真のほか、ガリ版で刷られたビラ、「ダム反対」の文字が掲げられたムシロ、自動車の屋根に取り付けられていた看板などが展示されていた。また、天井には、赤文字でダム反対と書かれた幾本もの白手拭いが吊るされていた。これらはすべて実際に反対運動で使用されたものだという。

こうした運動の息づかいまで聞こえてきそうなさまざまな展示物に基づいて、田村さんが反対運動の歴史を詳しく解説していく。その話術は巧みで、時折笑いを誘う。運動では、男たちが前面に立ったものの、奥さんたちが男たちを支え、後押しし、反対運動が続けられたともいう。デモの際に女性が持ちやすいように、プラカードが軽い段ボールで作られたことが語られると、一同なるほどと頷く。田村さんの軽妙な語り口に、あっという間に時間が過ぎ

てしまった（写真5）。資料館に隣接する建物の囲炉裏端に、奥さんがお茶とお菓子をご用意下さり、和やかな雰囲気の中で一息つき、しばし談笑した。



写真5 細川内ダム建設反対運動資料館にて

小雨模様であったことや時間が押してしまったこともあり、ダムが建設される予定であった場所の見学を断念し、田村さんたちに見送られながら、細川内ダム建設反対運動資料館を後にした。昼ご飯は旧木頭村中心市街地出原にある仕出し料理屋さんの座敷で頂いた。幾品か郷土料理も入っていた。外の雨音が強くなったり弱くなったりしていた。

昼食後は、旧木頭村がダム建設中止後の地域おこしのために立ち上げた食品製造・販売会社、株式会社さとうむらを訪ね、社長の日野雄策さんにお話を伺った。日野さんからは、当初第三セクターで行っていた経営が立ちゆかなくなり日野さんに託されることとなった経緯、地域住民出資（日野さんは「地域住民セクター」と呼んでいた）に転換した経緯、会社再生の際のものづくりコンセプト、現在の木頭ゆずを中心とした製品の事業展開などについて、1時間近くわたって詳しい説明を受けた。社長室では十数人が日野さんを取り囲むようにして話をお聞きした。社長室から辞した後は、国道に面する同社の店舗「よいしょきさとうむら」で、めいめい同社の製品を手にとった次第である。

木頭を後にし、国道195号線をひたすら東進して帰途についた。室戸岬を経て高知へ向かわれるということ、同駅で解散し、松本さん、平井先生ともお別れとなった。当初、吉野川第十堰に立ち寄りという案もあったが、今回は見送りとなった。自動車は国道55号線を北上したのち、神戸淡路鳴門自動車道を走り、明石を目指した。途中、淡路島南パーキングエリアで休憩し、明石海峡大橋を渡って本州へ戻り、無事明石に戻った。

今回の夏季研究会では、兵庫県洲本土地改良事務所が考える溜池の維持管理の課題、椿原さんが案じる上田池堰堤と土地改良区の将来、田村さんがダム

建設反対運動を通じて学んだ人の心、日野さんが期待する木頭の潜在力など、いろいろ考えさせられることがあった。乏水地、豊水地に生きるさまざまな立場の方の話を聞き、それぞれの地域が抱える問題を垣間見ることができた。大きな問題を抱えつつも、希望がないわけではないという印象も得た。

この場を借り、今回お世話になったたくさんのみなさまに御礼申し上げます。とくに、平井先生にご紹介

頂いた松本竹生さんには関係者との調整に当たって頂いたほか、無理をいって詳しい解説冊子をつくって頂きました。参加者から大変好評でした。心より感謝致します。

<参考文献>

三原郡史編纂委員会編（1979）『三原郡史』兵庫県三原郡町村会。

～新規加入会員案内～

敬称略

会員名	所 属	専 門 分 野 等
安東 正行	(財) 日本生態系協会 生態系研究センター	生物多様性と水

学会事務局からの案内と連絡

～学会誌「水資源・環境研究」の電子化について～

6月の総会で可決されましたように、事務局では現在、学会誌の電子化を進めております。J-STAGEの導入は、今年度発行分からになり、今後は基本オンラインのみの発行を予定しております。また導入後は、過去発行分もすべてオンラインでご覧いただけるようになります。閲覧方法など、会員の皆さまへの詳細は後日改めてご連絡差し上げます。学会ホームページでも運用開始準備が整い次第、ご案内させていただきます。

冊子での発行は、希望する会員の方のみ実費で承る予定で、価格など詳細は検討中です。詳細のご案内が遅れ、会員の皆さまにはご迷惑をおかけ致しますが、よろしくご了承のほどお願い申し上げます。

その他ご案内や詳細は、電子メールでも随時お知らせをする予定です。まだ電子メールアドレスのご登録がお済でない方は、学会事務局までご連絡下さい。

水資源・環境学会 事務局長 仁連孝昭

■ 連絡先（住所、E-MAILアドレス）に変更はございませんか？

転居などともなう住所の変更で、学会からの郵便物が返送されて来る場合や、メールエラーが多数ございます。所属先、連絡先等、変更がございましたら下記学会事務局までご連絡下さい。

□学会事務局 仁連 孝昭

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500滋賀県立大学環境科学部内

電話：0749-28-8278 E-MAIL：jawre@ses.usp.ac.jp

発行：水資源・環境学会

<http://www.jawre.org/>

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500 滋賀県立大学環境科学部内

電話 0749-28-8278 Fax 0749-28-8348 E-mail: jawre@ses.usp.ac.jp